情　報　公　開　文　書

研究の名称	加齢黄斑変性症例における抗 VEGF 薬による脈絡膜新生血管面積の変化
整理番号	R2020064
研究機関の名称	国立大学法人　富山大学
研究責任者	林　篤志
研究の概要	【研究対象者】 富山大学附属病院で 2016 年 3 月 1 日から 2018 年 6 月 30 日までに加齢黄斑変性と診断され、抗 VEGF 薬治療を行い、2 年以上経過観察可能であった患者 【研究の目的・意義】 加齢黄斑変性は加齢に伴って発症する黄斑変性で、高齢者の視覚障害の原因になる。血管新生を伴うものを滲出型と呼び、血管新生を伴わないものを萎縮型と呼ぶ。日本では滲出型が多くの割合を占め、治療の対象となる。滲出型加齢黄斑変性では黄斑部の加齢変化に基づいて脈絡膜新生血管が発生し、出血や滲出を生じる。脈絡膜新生血管が発生する機序はまだ解明されていないが、血管内皮増殖因子(VEGF)の発現亢進が新生血管の発生に関与しているとされている。VEGF の働きを抑えることで新生血管の増殖や成長を抑制する目的で抗 VEGF 薬による治療を行い、黄斑機能の維持や改善を目指すが、治療による脈絡膜新生血管の変化については現在まで十分に議論されていない。 今回当院で加齢黄斑変性と診断され治療を行なった患者の診療録を後ろ向きに調査し治療前後での脈絡膜新生血管の変化について検討する。 【研究の方法】 富山大学附属病院で 2016 年 3 月 1 日から 2018 年 6 月 30 日までに加齢黄斑変性と診断された患者で、抗 VEGF 薬治療を行い、2 年以上経過観察可能であった症例を対象とする。対象となった患者の診療録から治療前後の最高矯正視力、脈絡膜新生血管面積、治療回数を確認する。 【研究期間】 2020 年 6 月 30 日から 2022 年 3 月 31 日まで 【研究結果の公表の方法】 学会発表、論文掲載を予定しています。
研究に用いる情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無）	主要評価項目：脈絡膜新生血管面積 副次的評価項目：最高矯正視力、治療回数、中心網膜厚 他機関への情報の提供：無
研究に用いる情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院　眼科　教授　林　篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	研究責任者：附属病院　眼科　教授　林　篤志
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。

	担当者所属・氏名　眼科　沼田　彩花 研究対象者等からの相談窓口　電話対応 眼科外来　076-434-7310 または　076-434-7311 対応可能時間　9 時～17 時